

# 在日外国人留学生の対人関係 に関する研究

——静岡県における質問紙調査から——

富岡直子

## はじめに

近年交通手段や情報網の発達により地球は狭くなったと言われ、日本国内でも「国際化」が叫ばれて久しく、人の国際交流が著しく促進されてきた。日本の異文化接触の歴史は古いが一度に多くの人々が異文化に触れるようになるのは近年になってからである。1980年代には円高によって空前の留学ブームを迎え、ついに日本から海外へ出かける人は1500万人を越えるという時代になった。

1983年、当時の中曽根内閣で提起された「留学生受け入れ10万人計画」を境に、留学生の数は急増期を迎えて、限られた人達が直面していた異文化理解、異文化接触の問題は、数多くの普通の人々が日常的に経験する問題となった。政府が重要な外交政策の一つとして「留学生受け入れ10万人計画」に力を注いだことに加えて、中国や韓国の海外渡航の自由化もあり、80年代後半から90年代初めにかけて、在日留学生の数は急速に増加した。（文部省留学生課の資料では1990年は1980年の6倍で41,347人）

在日外国人留学生が年々増えるのに比例して留学生に関する研究も盛んに行われた。先行研究を通覧すると、心理学、社会学、教育学、社会心理学、異文化コミュニケーションなど様々な研究領域からアプローチが行われ、内容に関しても教育制度や日常生活の問題点、対日イメージに焦点をあてたもの、適応プロセスを心理的側面から検討したものなど多種多様である。そして多くの研究から友人関係・対人関係が留学生活に大きな影響を持つという結果が得られている。

在日外国人留学生にとって異文化接触がうまくいく為の要素は何か。満足度の高い留学とはどういう事なのか。留学生の異文化接触を考える上で、友人関係・対人関係は充実した留學生活の重要な鍵であるという考えから、友人関係・対人関係が留學満足度にどう影響するかを質問紙調査結果から分析・検討していく。

## I. 異文化における「不適応」と「適応」

実際に質問紙調査の内容や検討に入る前に、留学生問題を論じる際に把握しておくべき重要な側面として、異文化における「不適応」と「適応」に関して触れておこうと思う。

異文化における不適応の問題は、精神医学や臨床心理学の領域から分析された事例が多い。不適応状態を様々な身体的・精神的症状として捉えて、原因を究明して不適応状態を治す為に治療を施す考え方である。

手塚(1991)は留学生の不適応パターンを三つに分類した。

第一のタイプは、攻撃型と定義され、異文化の中での自分自身を防衛したい本能が強いあまり、自分の弱さを客観的に見ることが出来ずにひたすら相手を攻撃することで埋め合わせる学生である。

第二のタイプは、依存型と定義され、自分では何も出来ないと問題を放棄して誰かに頼ることで自分自身を維持している学生である。

第三のタイプが、留学生が最も陥りやすいと言われるうつ引きこもり型と定義される学生である。友人を作る努力をせず自分の殻に閉じこもり、自信喪失した自分に怒りを感じる為に心の負担が大きくなる。

異文化適応もまた不適応と同様に、精神医学・臨床心理学的な側面から論じられることが多い。適応状態を維持するには、相手の文化で正常とされる価値観、思考方法、行動様式のみが正しいと考え、そのとおりに従えばすべては解決されるとする考えも広く受け入れられている。

また、適応はカルチャーショックによるうつ状態や不安感を強調して述べられる事も多く、留学生がカルチャーショックを恐れるあまり、なるべく不

要な接触を避けて、常に気の合う少数の仲間だけで交流をしてそれで留学生活がうまくいっていると錯覚することもある。

このように異文化接触が成功することを「適応」「不適応」という心理学的側面を強調した方法で検討することに警鐘をならしたのが Furnham and Bochner (1986) であった。彼らは、異文化接触を論じる際に使われてきた「適応」の概念には問題があり、文化的に異なる人々の関係の改善には役立たないことを指摘した。

第一は、従来の「適応」の概念は不必要に心理的病理現象が強調されているとした点である。つまり異文化での困難や失敗は、留学生の内面に問題があり、心の中を治せばすべてがうまくいくと捉える傾向がこれにあたる。しかし、この考え方には、留学生と周囲の諸問題は、留学生自身の文化と日本という異文化との社会的環境の相互作用として捉える事が重要であるという観点が欠落していると彼らは指摘している。

第二は、「適応」という考え方には自分自身の「文化的血統」を捨てて相手側の文化を受け入れればそれでいいとする、文化的ショービニズム（熱狂的愛国主義）に陥る危険性があるという点である。

そして在日外国人留学生の場合にも、この「適応」の概念を捉えなおす動きがあり、その背景には留学生の受け入れを「発展途上国援助」型意識から双方向的国際理解の理念に基づき「留学生に学ぶ」という意識へと変革していこうという流れがある。

以上のように、「不適応」「適応」の枠組みによって従来捉えられてきた異文化接触の問題に対して、Brislin らは次のような考え方を主張しており、留学生問題にも充分応用できると思われる。

### 異文化接触が上手くいく為に必要な要素

Brislin ら (1986) は異文化接触の成功には次の 3 要素、①目的成就・専門的能力の発揮、②心身の健康、③対人接触能力の向上がすべて満たされる必要があると主張している。これは、一般的な異文化接触における考え方とし

て提唱されているが、留学生問題にも充分応用できる。

### (1) 目的成就・専門的能力の発揮

留学生がわざわざ日本を選んでくるには何らかの目的がある。多くの場合最終目標は学位の取得であると推測できるが、各個人によってその目的は日本語習得、専門研究、技術習得など様々である。この目的が最終的に達成されないとすると留学は満足できないものになると思われる。

さらに、目的を達成させる為にはそれなりの方法や技術が必要になってくるが、これらの能力やスキル（授業ノートの取り方、試験の受け方、図書館の使い方等々。）が不十分であった場合、目的達成も難しくなる事を考えると異文化接触が上手くいく為の要素としての重要度がわかる。

### (2) 心身の健康

留学生に勉学を遂行する能力があったとしても、身体の具合が悪かったり、不安やいらいらが強かったりすれば力を出し切ることは出来ない。

井上・伊藤(1995)によると、留学生の健康上の問題は異文化適応の態度に関連しており、来日半年ほどで健康上の問題を抱える事が多い留学生も、適切な援助によって一年後には回復する例が多いとしている。

### (3) 対人接触能力の向上

人間は社会の中で他人との関係を上手く調整しながら成長していくものであり、周囲の人々との良い関係が維持できなければ、たとえ健康であっても、能力や技術が卓越していても、物事が上手く進まないことが多々あることも事実である。我々は育った文化の中で他人との関係調整能力を身につけていくが、その能力は成長する中で意識して獲得するものである。他人との関係の中でフィードバックを繰り返しながら、努力して身につける必要があるからこそ異文化接触が上手くいくかどうかの要素として対人接触能力は最も重要であるともいえる。

Brislin らはこれら 3 要素が全て満たされることが成功の秘訣だとしているが、3 要素がバランスよく維持されている事が重要であると考え。不快な出来事や困難な問題を受け入れる許容範囲は人それぞれであるから、お互

いに補い合う事ができる筈である。

以上、在日外国人留学生の異文化接触の問題を考察する際に把握しておくべき問題として、「適応」「不適応」を捉え直し、異文化で上手くやっていく為の3要素に関して論じてきた。次に実際の質問紙調査の結果を考察しながら留学生が直面する対人関係の諸問題を検討したいと思う。

## II. 静岡で学ぶ外国人留学生に関する質問紙調査

在日外国人留学生が異文化の中で実際にどのように生活しているのか、又その基本属性、滞在状況や経済状態などの生活状況、対人関係や友人関係によって留学満足度（勉学満足度、日常生活満足度、日本留学推薦度）がどう影響されるのかを考察する為に、静岡県で学ぶ外国人留学生を対象に調査を行ない、分析・考察を進めていった。

### <静岡県下で学ぶ外国人留学生とその生活環境>

静岡県下には4年制大学9校・短期大学10校があり、451名（1995年5月<sup>(注1)</sup>現在）の留学生が日々勉学に励んでいる。大学の多くは静岡・浜松等の大都市市内又は郊外に位置し、中規模の学生数を有する所が主流である。静岡県下の大学・短大は、大学構内及び近隣に学生が居住する学生街を形成しており、物価も安く留学生には住みやすい地域といえる。

### <調査の実施方法>

質問紙は各大学・短大の担当職員の方々に配布を依頼した。留学生に直接手渡しをするか、又は指導教官、研究室を通して配布をお願いした。調査は自記式質問紙法で行い、回答後の質問紙は郵送によって回収した。

<sup>(注2)</sup>  
配布数は407、回収数は249でそのうち無効6を除いて最終的な有効回収数は243、回収率は59.7%であった。

### <調査期間>

1996年5月下旬までに各大学・短大へ質問紙を送付して、6月上旬より留学生に配布、7月末までを回収期間とした。

### ＜調査票及び調査内容＞

調査票は日本語による質問文を作成して英語の翻訳を付した。質問の項目内容に関しては出来るだけ具体的な記述を心がけて、簡潔な日本語になるように配慮した。英語の翻訳に関しては日本で教師をしている米国人（米国で大学院修了）2名に英文チェックを依頼した。

質問紙の内容は大きく分けて以下の4つから構成されている。

- (1) 目的、日本語能力、滞在状況、経済状態等の生活状況の要因
- (2) 友人関係、対人関係、地域交流等の要因
- (3) 勉学や生活の満足度—勉学満足度、日常生活満足度、日本留学推薦度（帰国後日本への留学を友人等に勧めるか？）の3項目
- (4) 基本属性の要因

## III. 外国人留学生の満足度に影響する要因

### —クロス集計による分析—

#### III-1. 外国人留学生の基本属性と留学満足度

留学生の基本属性と留学満足度との関係は、岩尾・萩原(1988)の研究でも詳しく分析されている。又、男女差や学部別、学年別、国籍別の差が留学生の生活に有意に影響する事は多くの研究からも明らかである。[江村(1993)、加賀美(1994)、箕浦(1992)等]。

#### ＜基本属性に関する回答者の構成＞

性別については男性 139 (57.2%)、女性 104 (42.8%) で男女比は 6 対 4、年齢は 19 才から 42 才まで幅広いが 27～30 才が最も多く 72 (29.8%) で、30 才以下と 31 才以上の比率は 7 対 3 であった。国籍は中国が最多で 155 (64.0%)、韓国が 22 (9.1%)、その他のアジア諸国が 47 (19.8%)、北米他が 18 (7.1%) となり、アジア全てで 9 割を越えた。

結婚形態は、140 (57.6%) が未婚で 103 (42.4%) が既婚、家族と同居は約 3 割、未婚の約 9 割は同居せず、既婚の約 6 割が家族と暮らしていた。

所属課程は学部生が 95 (39.4%) と最も多く学部学生と大学院生（修士・

博士) 比は大体半々であった。滞日期間は1年以上2年未満が最多で約25%、長期留学と短期留学(1年未満)の比は3対1で、今後の滞日予定は3年以上4年未満が53(23.1%)で最も多かった。

#### <基本属性と勉学満足度/日常生活満足度/日本留学推薦度>

クロス集計の分析に用いた基本属性9要因の中で、勉学満足度に関して唯一有意な関係があったのは所属課程である[ $\chi^2(6)=18.9$   $P<0.05$ ]。所属課程の中で最も勉学満足度が高いのは博士課程の留学生である。

日常生活満足度に影響する基本属性要因で有意な関係を示したものは、国籍、結婚形態、所属課程、滞日期間、今後の滞日予定期間の5項目であった。最も有意差が大きいのは国籍の要因で、中国、韓国の満足度が低く、他のアジア諸国と北米その他は高い[ $\chi^2(6)=38.6$   $P<0.001$ ]。以後順に、今後の滞日予定期間(半年以内に帰国予定の満足度が高く、滞在予定3~4年と未定の人が高い)[ $\chi^2(12)=31.6$   $P<0.005$ ]、結婚形態(未婚の方が満足度が高い。)[ $\chi^2(2)=13.7$   $P<0.01$ ]、滞日期間(1年未満の学生が最も満足度が高く、滞在が長くなるにつれて満足度が下がる。)[ $\chi^2(10)=26.9$   $P<0.01$ ]、所属課程(博士課程の学生の満足度が高く修士課程が低い。)[ $\chi^2(6)=16.1$   $P<0.05$ ]となっている。

日本留学推薦度に影響する基本属性要因で有意な関係を示したのは唯一結婚形態のみであった。必ず勧めるに未婚者が多く、絶対勧めないに既婚者が偏るという両極化を示した。

#### <基本属性と留学満足度についての考察>

勉学満足度で唯一有意な関係にあった所属課程では、博士、学部、修士の順に満足度が下がる。博士号取得を最終目標にして現在修士で学んでいる学生にとって、先の長い留学生活への漠然とした不安(博士号取得の可能性や奨学金等々)が影響していると考えられる。

日常生活満足度で有意な関係のあった5項目中、最も差の大きい国籍に関しては同じアジアでも中国・韓国とその他アジア諸国では満足度に違いがあり、アジア対非アジアという検討は慎重である事を示唆する。既婚者の満足

度が低いのは住居探しや経済状態の大変さがうかがえる。

### III-2. 滞在状況や経済状態など生活状況の要因と満足度

#### <生活状況に関する回答者の構成>

留学目的は複数回答で選択され、学位のみ、日本文化・日本語、専門研究など6カテゴリーに分類した。学位取得を目指す学生は約6割、専門研究と技術習得を加えると8割を越えた。日本語能力の有無は難易度の異なる8つの項目を設定してそれを日本語で行えるかという質問をして測定した。7項目以上出来る人を上級、4～6項目の人を中級、3項目以下の人を初級とした。68%が上級、28%が中級、初級はわずか3%強であった。学位の評価に関してはアジアからの留学生が多い為か軒並み評価は高く、「日本と同等」を合わせると9割を越えた。

居住形態はアパートが最も多く6割弱、次いで留学生寮、大学寮、ホームステイとなり、約7割が現在の居住に満足と回答している。都市の住みやすさは期待以上が約2割、期待と大体同じを加えると8割を越え静岡の住みやすさを好意的に受け止めている学生が多い。

奨学金の有無に関しては約4割が現在奨学金を受けており、金額は15万円/月以上が約4割と高めであった。しかし残りの学生はアルバイトなどで留学資金を賄い勉強との両立に悩む姿も浮き彫りにされた。

#### <生活状況の要因と勉学満足度>

クロス集計に用いた生活状況の要因は10要因であり、勉学満足度と有意だったのは、「日本は第一希望国か？」と都市の住み易さの2項目。日本を希望した学生ほど満足度が高く [ $\chi^2(2)=14.9$   $P<0.001$ ]、静岡が住みにくいと感じる留学生ほど不満度が高い [ $\chi^2(4)=10.8$   $P<0.05$ ]。

#### <生活状況の要因と生活満足度>

生活状況の10要因中、日常生活満足度と有意であったのは、居住形態、奨学金、資金の出所、仕事と勉強の両立、住み易さの5要因だった。

居住形態は、留学生寮に住む学生が満足である割合が高く、アパート居住



者は低い [ $\chi^2(4)=13.4$   $P<0.01$ ]、又都市の住み易さは、期待以上に住み易いと回答した人程満足度が高く、期待以下の人ほど日常生活にも不満を抱いていた [ $\chi^2(4)=64.8$   $P<0.001$ ]。

奨学金は受けている人ほど満足度が高くなり、その傾向が勉学満足度に比べてより顕著である [ $\chi^2(2)=10.8$   $P<0.005$ ]。アルバイトで留学資金を確保している人の満足度が低く [ $\chi^2(6)=18.37$   $P<0.005$ ]、アルバイトと勉強の両立に悩む人ほど満足度が低い [ $\chi^2(6)=24.0$   $P<0.001$ ]。

#### <生活状況の要因と日本留学推薦度>

生活状況の 10 要因中、日本留学推薦度で有意な関係だったのは、「日本は第一希望国か？」と都市の住み易さの 2 要因。日本を希望した人程留学を勧める傾向が強いことが顕著に現れた [ $\chi^2(3)=16.1$   $P<0.005$ ]。都市の住み易さも、期待以上と回答した人は必ず勧める又は多分勧めると答える傾向が強かった [ $\chi^2(6)=45.8$   $P<0.001$ ]。

#### <生活状況の要因と留学満足度についての考察>

住居に恵まれて奨学金が取れるなど経済的に安定して勉学との両立が出来る → 時間的余裕が生まれる → 友人も出来やすい → 満足度も高くなるという関係が予測できる。

### III-3. 友人関係・対人関係と満足度

多くの留学生の目的が日本での勉学である点は疑う余地はないが、留学生活がただ勉学だけで成立しないこともまた事実である。留学生が異文化でより充実した生活を送るには対人関係のあり方が重要であり、それ次第で留学生活は楽しくもなり又苦痛にもなることが知られてきた。そこで次に、友人数や付き合い方、友人以外の日本人との関係、親友は誰かなどの対人関係に関する留学満足度を分析、検討していく。

#### <友人関係と留学満足度>

##### ○友人数に関する回答者の構成

留学生が何人位の友人を持っているか、一週間に一度は会って食事をした

りする仲の友人を同国人、留学生、日本人学生それぞれ回答してもらった。  
1～4人の友人を持つ人が約4割を占めて、最も多いのが同国人の友人で次いで留学生、日本人学生となっている。

### ○友人数と満足度の分析・結果

友人数と勉学満足度、日常生活満足度、日本留学推薦度を分析してみると、留学生の友人数で日本留学推薦度において有意な関係であった。「必ず勧める」「多分勧める」は共に友人数4人以下とした留学生が最も多く、友人数が多い事が満足度にはつながらない結果が得られた。

### ○友人数と満足度に関する考察

友人関係は留学生生活が充実するかどうかの重要な鍵となる。同国人の友人を持つ人が多いことは言葉の壁がなく気心の知れた友人間のネットワークが強い事がわかる。又友人の数が多い事よりも、信頼のおける何人かの友人と内容の濃い関係をもつ事を重要視していると思われる。

### ○友人との付き合い方に関する回答者の構成

留学生が同国人、留学生、日本人学生それぞれと日頃どのような付き合い方をしているのかは次の図1の通りである。同国人の友人とは、「個人的な悩みを話す」が1位、「お互いの家へ招待する」が2位、続いて「勉強を助け合う」となっている。留学生の友人とは、「お互いの家へ招待する」が1位で

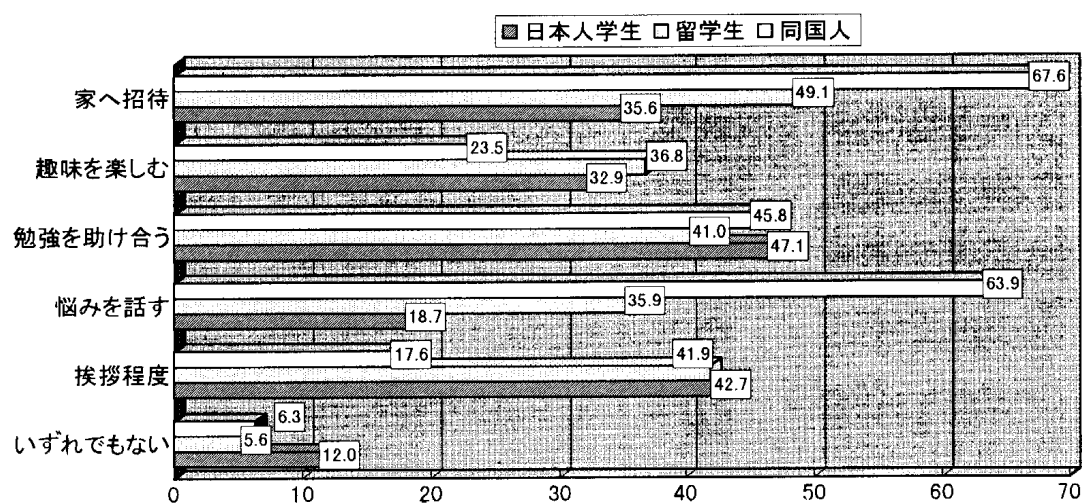


図1 友人との付き合い方（複数回答・%）

「あいさつ程度である」と「勉強を助け合う」が続く。日本人学生の友人とは「勉強を助け合う」が1位で「あいさつ程度である」が2位、「お互いの家へ招待する」がそれに続いた。悩みを話せる日本人の友人数は同国人の4分の1に過ぎない。「個人的な悩みを話す」というカテゴリー以外において、留学生の友人と日本人の学生の友人はその付き合い方が似ているという結果が得られた。

#### ○友人との付き合い方と満足度の分析

勉学満足度に影響する要因については特に有意な関係まではない。日常生活満足度に影響する要因では、日本人学生と「お互いの家へ招待する」と「悩みを話す」の2カテゴリーで有意であった。日本留学推薦度に影響する要因に関しては更に多く、「お互いの家へ招待する」は同国人、留学生、日本人学生全てが有意な関係にあった。

#### ○友人との付き合い方と満足度についての考察

友人に悩みを話すを「親密型」交流、勉強を助け合うを「相互援助型」交流、お互いの家へ招待する・趣味を一緒に楽しむを「友好型」交流、そしてあいさつ程度の付き合い・上記いずれでもないを「表面型」交流と定義して分析結果を考察していく。

まず、家へ招待するのはある程度プライベートな部分を見せるという意味で結構深い付き合いで、悩みを話すのは本当に心を許した結果であり信頼度が高い事から、日本人学生と「親密型」の交流ができる留学生ほど充実した生活を送っている事がわかる。お互いの家へ招待しあえる仲間を同国人、留学生、日本人学生と持っているほど満足度は高い。つまり、幅広く「友好型」の交流をできる留学生ほど日本に対して好意的で日本への留学を勧める傾向が強い。さらに、留学生にとって日本人学生と助け合える事は非常に重要である。日本人学生と「相互援助型」の交流が深いほど日本への留学を勧める傾向が強いといえる。そして、留学生と日本人学生に対して悩みが話せる友人を持つ「親密型」交流の留学生ほど日本留学を勧め、上記いずれでもないと回答した「表面型」交流の留学生ほど日本への留学を勧めないといえる。

友人数と付き合い方に関しては、同国人や留学生よりも日本人学生の友人との関係の善し悪しが重要である。

#### <友人以外の日本人との関係と満足度>

留学生にとって友人との関係が満足度に影響することは疑う余地はないが、友人以外の日本人との交流も重要であることから、教授（指導教官等）、大学の担当職員、アパートの大家・寮の管理人、アルバイト先の同僚や上司、そして近所の人々という5種類の人間関係について「上手くいっている」から「付き合いはない」まで5段階で回答してもらった。

#### ○友人以外の日本人との関係についての回答者の構成

「上手くいっている」の回答が最も多いのはアルバイト先の上司・同僚であり、次に教授で共に4割を越える。最低であるのは近所の人々で約25%であった。全体的には約7割～8割以上が良好と回答している。

#### ○友人以外の日本人との関係と満足度の分析

勉学の満足度に有意な関係を持つのは教授と留学生担当職員である。有意差が大きいのは教授との関係で、「上手くいっている」と答えた内の3割はとても満足している。留学生担当職員との関係も同様に約3割はとても満足しているが、付き合いがない人の不満度は高くなっている。

日常生活の満足度で有意な関係にあるのは、アルバイト先の上司・同僚との関係と教授との関係である。いずれも上手くいっている人の多くが満足している反面、不満を感じる留学生の割合も無視できない。

#### ○友人以外の日本人との関係と満足度についての考察

勉学を目的として滞在する留学生である以上、勉学環境に対する充実感や満足感と教授との関係が重要であることは容易に予測できる。分析の結果もやはり教授との関係の有意差は大きく、日々の授業や論文指導、日常の大学生活で教授と良い関係が保てるかどうかで充実した留学生活を送れるかどうか大きく関わっている事が明らかになった。又、留学生担当職員との関係も同様で、学業関係・奨学金関係などの情報を交換するという点で、職員と上手く交流出来るほど満足度も高いといえる。このように、友人以外の日本

人との付き合いも重要であり留学生の満足度を大きく左右することが示された。

#### ＜「親友は誰か？」と満足度＞

異文化で生活する留学生は、文化の違いに戸惑い、様々な場面でストレスや不満を抱える事が多い。そんな時相談できる相手や信頼できる親友がいるか否かは充実した留学生活を送る上で重要である。

#### ○「親友は誰か？」についての回答者の構成

数多くの友人の中でも、心から信頼できる親友がいるという事は大きな意味を持つ。友人数と満足度の所でも述べた様に、友人の多さよりも関係の親密さの方が重要なことは明らかだからである。最も信頼していて心が許せる友人は誰か？と尋ねた結果、自分の家族が約4割、続いて同国人の友人、留学生の友人となっている。日本人学生をあげたのは少数で、更に約5%が親友は誰もいないという深刻な回答をしている。

#### ○「親友は誰か？」と満足度についての考察

第一に多くの留学生が、誰かしら親友と呼べる友人を持っており、それはある意味で静岡での留学生活が充実している証拠でもある。

第二にここでも友人関係の重要性は高いという結果が得られた。さらに、日本人に対しては、友人との付き合い方の所での日本人への表面的対人関係の側面がより強調された形となった。

第三は、自分の家族を親友に選んだ留学生にとっては、家族とのやり取りはある時は上手くいって問題解決に働くが、関係が近すぎて直接的過ぎることから不満の増幅を生み出す場合がある事もわかった。

#### 《友人関係・対人関係と満足度との全体的考察》

○友人数については同国人との強いつながりを持ちつつ日本人との幅広い交流もある。又人数の多さより信頼のおける友人との関係の深さが重要である。幅広く「友好型」の交流をできる程日本に好意を持ち、日本人学生と「相互援助型」「親密型」の交流が深い程満足度が高い。日本人学生との関係の善し悪しが留学生活が充実するか否かの鍵である。

○友人以外の日本人との関係は、勉学については教授や職員と、生活についてはアルバイト先の人間関係が深く影響している。

○多くの人が親友を持つが日本人の親友は少なく、親友を家族と考える場合は時としてその関係が問題解決と不満の増幅という二面性を持つ。

ここまでの分析及び考察から、留学生が異文化で生活するうえで大きく影響力をもつのは友人関係・対人関係であり、満足度に影響する要因も最多の22項目が有意であった。これは属性や生活状況よりも対人関係が留学生の異文化適応により強い影響関係をもつ事を示唆する。そこで基本属性、生活状況、対人関係から有意差の大きいカテゴリーを選択して、数量化Ⅱ類による分析を試みる。それによって、各カテゴリー間にある留学生の満足度に対する規定力の強さの差異を明らかにしていく。

#### IV. 外国人留学生の満足度を規定する要因

##### —数量化Ⅱ類による分析・考察—

静岡で学ぶ留学生の満足度は、基本属性・生活状況・対人関係の中でいかなる要因に規定されているのであろうか。留学満足度を規定する要因について数量化Ⅱ類による分析を通して考察していく。

##### <基本属性（5要因）と満足度>

クロス集計の基本属性で満足度と有意差の大きかった5要因を説明変数、3つの留学満足度を基準変数として数量化Ⅱ類による分析を行った。

数値は、満足と不満足に対する各要因の要素である各カテゴリーの規定度の強さと方向を現している。レンジは、満足度が各要因に寄与される度合いの強さの指標である。ここでは分析結果から得られたうちの第一解のみを採用した。各相関係数は十分な値をとっており、満足度の各群の重心は、勉学満足度は「とても満足」・「まあまあ満足」と「不満」に、日常生活満足度は「とても満足」と「まあまあ満足」・「不満」に、日本留学推薦度は勧めると勧めないで2群づつに分かれた。

この分析結果から、レンジを見ると、勉学満足度については所属課程の規

表1 基本属性(5要因)と満足度の数量化Ⅱ類による分析結果

要 因	カテゴリー	勉学満足度		日常生活満足度		日本留学推薦度	
		数値	レンジ	数値	レンジ	数値	レンジ
年 齢	22才以下	1.125	2.201	0.099	0.289	-0.539	1.264
	23～26才	0.141		-0.129		-0.584	
	27～30才	0.067		0.099		0.158	
	31～34才	-0.389		0.063		0.555	
	35才以上	-1.077		-0.191		0.68	
国 籍	中 国	0.281	0.954	-0.326	2.132	-0.338	1.632
	韓 国	-0.597		-0.592		-0.309	
	その他アジア	-0.364		0.734		0.719	
	北米他	-0.673		1.54		1.295	
結婚形態	未婚	0.175	0.42	0.06	0.144	0.449	1.082
	既婚	-0.245		-0.084		-0.633	
所属課程	学部	-0.913	2.321	0.298	1.255	0.491	0.981
	修士	1.408		-0.563		-0.489	
	博士	-0.059		0.691		-0.016	
	その他	0.227		-0.529		-0.378	
滞日期間	～6カ月	-0.493	1.716	1.578	2.226	1.192	1.945
	6～12カ月	-0.134		0.434		0.71	
	1～2年未満	-0.039		-0.222		0.23	
	2～3年未満	0.039		-0.648		-0.754	
	3～4年未満	-0.219		-0.207		-0.685	
	4年以上	1.223		-0.172		-0.136	
相関係数		0.359		0.522		0.304	

定力が最も強く、それに続いて年齢、滞日期間、国籍となっている。日常生活満足度については、滞日期間が最も規定力が強く、国籍、所属課程と続いている。日本留学推薦度については、滞日期間の規定力が最も強く、続いて国籍、年齢、結婚形態となっている。

さらに各要因のいかなるカテゴリーが満足度を抑制しているか、つまり不満を促進しているかを見てみると数値がマイナスの方へ強いほど規定力が強いといえる。勉学満足度に関しては年齢35才以上(-1.077)、所属課程が学部(-0.913)、滞日期間6カ月未満(-0.493)等のカテゴリーである。日常生活満足度では滞日期間の2年以上3年未満(-0.648)、国籍が韓国

(-0.592)、所属課程の修士(-0.563)等のカテゴリーである。そして日本留学推薦度に関しては滞日期間の2年以上3年未満(-0.754)、国籍が中国(-0.338)、年齢が23才~26才(-0.584)等である。

一方で、満足度を促進する要因では、勉学満足度では所属課程が修士の学生(1.408)、滞日期間が4年以上(1.223)、年齢22才以下(1.125)となっている。日常生活満足度では、滞日期間6カ月未満(1.578)、国籍が北米その他(1.540)、国籍がその他アジア(0.734)であった。そして日本留学推薦度では、国籍が北米その他(1.295)、滞日期間が6カ月未満(1.192)、国籍がその他アジア(0.719)となっている。

#### 《基本属性(5要因)と満足度についての考察》

全体的には滞日期間と所属課程が強い規定力を持ち、さらにカテゴリー別に見ると滞日期間2年以上3年未満、所属課程が修士、国籍が韓国について数値が大きくなっている。日本に比較的長く滞在する修士以上の学生が留学生活に不満を抱いている事から2~3年目が最も先行きの不安感や日本社会に対する不信感が高まる時期とも考えられる。一方、満足度を促進するカテゴリーについては、滞日期間4年以上と2年未満の学生、国籍がその他アジア/北米等である。ただし年齢35才以上は不満を持ちながら日本留学は勧めていたり、修士の学生は不満が高いわりに勉学には満足していたりとアンビヴァレントな心情もうかがえる。

#### ＜基本属性(5要因)+生活状況(5要因)と満足度＞

次に、クロス集計において生活状況の中で満足度と有意差の大きかった5要因は重要であると考え、はじめに分析した属性(5要因)にこの5要因を加えた10要因を説明変数として留学満足度との数量化Ⅱ類による分析を試みた。ここでも分析結果から得られたうちの第一解のみを採用し、各相関係数は十分な値をとっている。

レンジを見ると勉学満足度では、所属課程、年齢、勉強とアルバイトの両立の順で、日常生活満足度では、国籍が最も高く、滞日期間、日本語能力と続く。日本留学推薦度では滞在施設の規定力が最も高く、続いて滞日期間、



表2 基本属性+生活状況と満足度の数量化Ⅱ類による分析結果

要 因	カテゴリー	勉学満足度		日常生活満足度		日本留学推薦度	
		数値	レンジ	数値	レンジ	数値	レンジ
年 齢	22才以下	0.704	1.344	-0.245	0.596	0.325	0.635
	23～26才	0.022		-0.007		0.069	
	27～30才	0.156		-0.059		0.004	
	31～34才	-0.349		0.081		-0.148	
	35才以上	-0.64		0.352		-0.311	
国 籍	中 国	0.123	0.569	0.299	2.012	0.123	0.635
	韓 国	-0.446		0.441		-0.168	
	その他アジア	-0.02		-0.582		-0.118	
	北米その他	-0.441		-1.571		-0.512	
結婚形態	未婚	0.129	0.317	-0.005	0.013	-0.309	0.756
	既婚	-0.187		0.008		0.446	
所属課程	学部	-0.739	1.749	-0.181	1.068	-0.239	0.648
	修士	1.01		0.325		0.016	
	博士	-0.025		-0.6		0.06	
	その他	0.318		0.468		0.408	
滞日期間	～6カ月	-0.408	1.109	-1.261	1.664	-0.716	1.099
	6～12カ月	0.134		0.067		0.094	
	1年～2年未満	0.094		0.079		-0.212	
	2年～3年未満	-0.006		0.403		0.383	
	3年～4年未満	-0.344		0.058		0.23	
	4年以上	0.701		0.226		0.026	
日本は第一希望国か	はい	-0.368	0.926	-0.172	0.435	-0.426	1.086
	いいえ	0.558		0.262		0.66	
日本語能力	上級	0.148	0.581	-0.076	1.068	0.148	0.479
	中級	-0.322		0.289		-0.332	
	初級	-0.433		-0.778		-0.299	
滞在施設	アパート	0.123	0.382	0.127	0.367	0.013	1.493
	留学生寮	-0.258		-0.239		-0.612	
	大学寮・社員寮 ホームステイ	-0.039		-0.079		0.881	
奨学金有無	はい	0.273	0.431	-0.132	0.208	0.504	0.795
	いいえ	-0.158		0.076		-0.291	
勉強と アルバイト との両立	難しい	0.071	1.156	0.172	0.399	0.232	0.58
	それ程でない	0.549		-0.227		-0.206	
	難しくない	0.039		-0.203		-0.242	
	アルバイト無	-0.607		-0.203		-0.349	
相関係数		0.437		0.583		0.423	

「日本は第一希望国か?」、奨学金の有無の順になっている。

更に各カテゴリー別に見ると、満足度を抑制する要因としては、勉学満足度では所属課程の学部(-0.739)、年齢の35才以上(-0.640)、勉強とアルバイトの両立の「アルバイトはしていない」(-0.607)の順である。日常生活満足度では、国籍の北米その他(-1.571)、滞日期間の6カ月未満(-1.261)、日本語能力の初級(-0.778)の順となり、日本留学推薦度に関しては、滞日期間の6カ月未満(-0.716)が最も大きく、滞在施設の留学生寮(-0.612)、国籍の北米その他(-0.512)等と続く。

一方、満足度を促進するカテゴリーについては、勉学満足度では所属課程が修士の学生(1.010)、年齢が22才以下(0.704)、滞日期間4年以上(0.701)等となっている。日常生活満足度では、滞日期間2年以上3年未満、国籍が韓国、所属がその他となっているが数値はいずれも低い。日本留学推薦度では、滞在施設の「大学寮、ホームステイ、社員寮」(0.881)、「日本を第一希望国としない」学生(0.660)、奨学金をうけている学生(0.504)等となっている。

#### 《基本属性+生活状況と満足度についての考察》

ここでも、滞日期間が強い規定力をもっているが、国籍、滞在施設、年齢がやや高いがばらつきがある。カテゴリー別では不満度を促進するのは基本属性が多く、満足度を促進するのは生活状況からが多い。生活状況において好意的に思う事が多ければ属性のマイナス部分を補う可能性もある。基本属性(5要因)のみの分析と比べて次の点が説明できる。

○生活状況の5要因が加わって分析した結果、基本属性のレンジの幅は少なくなり各要因の規定力は弱くなっている事がわかる。

○生活状況の5要因を加えると相関係数の数字が大きくなり、生活状況の要因が留學生活の満足度に強く影響する事を現す。

#### <基本属性+生活状況+対人関係(11要因)と満足度>

最後に、クロス集計において、対人関係で満足度と有意差が大きかった11要因を加えた合計21要因を説明変数として、3つの留学満足度を基準変数として数量化Ⅱ類による分析を行った。分析結果から第一解のみを採用し、

表3 基本属性＋生活状況＋対人関係と満足度の数量化Ⅱ類による分析結果

要 因	カテゴリー	勉学満足度		日常生活満足度		日本留学推薦度	
		数値	レンジ	数値	レンジ	数値	レンジ
年 齢	22才以下	0.239	0.84	-0.255	0.654	0.331	0.496
	23～26才	0.062		-0.131		0.011	
	27～30才	0.111		0.011		-0.165	
	31～34才	-0.106		0.146		-0.039	
	35才以上	-0.6		0.399		0.156	
国 籍	中 国	-0.014	0.402	0.272	1.841	0.2	1.053
	韓 国	0.025		0.285		0.076	
	その他アジア	0.123		-0.311		-0.262	
	北米その他	-0.279		-1.556		-0.853	
結婚形態	未婚	-0.031	0.079	0.039	0.098	0.063	0.159
	既婚	0.048		-0.059		-0.096	
所属課程	学部	-0.159	0.832	-0.055	0.726	-0.038	0.544
	修士	0.575		0.001		-0.071	
	博士	-0.109		-0.311		0.387	
	その他	-0.257		0.415		-0.157	
滞日期间	～6カ月	0.501	1.222	-1.126	1.508	0.176	0.533
	6～12カ月	0.094		-0.093		0.232	
	1年～2年未満	-0.189		0.129		-0.061	
	2年～3年未満	0.068		0.256		-0.214	
	3年～4年未満	-0.565		0.164		0.246	
	4年以上	0.657		0.383		-0.306	
日本は第一希望国か	はい	-0.209	0.541	-0.088	0.228	-0.288	0.759
	いいえ	0.333		0.14		0.472	
日本語能力	上級	0.102	0.617	-0.08	0.951	0.097	0.335
	中級	-0.291		0.263		-0.239	
	初級	0.326		-0.688		-0.131	
滞在施設	アパート	0.062	0.375	0.079	0.263	0.216	0.908
	留学生寮	-0.249		-0.184		-0.692	
	大学寮・社員寮 ホームステイ	0.126		-0.024		0.21	
奨学金有無	はい	0.106	0.166	-0.171	0.267	0.15	0.234
	いいえ	-0.059		0.096		-0.084	
勉強と アルバイト との両立	難しい	0.119	0.734	0.119	0.279	0.078	0.231
	それ程でない	0.22		-0.161		-0.048	
	難しくない	0.104		-0.064		0.026	
	アルバイト無し	-0.514		-0.12		-0.153	

(表3 続き)

要 因	カテゴリー	勉学満足度		日常生活満足度		日本留学推薦度	
		数値	レンジ	数値	レンジ	数値	レンジ
同国人と勉強を助け合う	はい	-0.115	0.212	-0.014	0.026	-0.078	0.145
	いいえ	0.097		0.012		0.067	
同国人に悩みを話す	はい	0.186	0.541	-0.084	0.245	0.101	0.299
	いいえ	-0.355		0.161		-0.198	
留学生と勉強を助け合う	はい	-0.048	0.09	0.134	0.238	-0.129	0.231
	いいえ	0.038		-0.104		0.102	
留学生に悩みを話す	はい	0.043	0.068	0.039	0.061	0.399	0.625
	いいえ	-0.024		-0.022		-0.227	
日本人と勉強を助け合う	はい	-0.264	0.487	-0.15	0.278	-0.105	0.193
	いいえ	0.223		0.127		0.088	
日本人に悩みを話す	はい	-0.447	0.55	-0.038	0.047	-0.355	0.435
	いいえ	0.103		0.009		0.08	
教授との付き合い	上手くいっている	0.034	5.099	-0.303	2.673	-0.075	1.89
	やや上手くいってる	0.024		0.289		0.033	
	余り上手いかない	-0.554		0.084		-0.381	
	上手いかない	4.545		-2.384		1.51	
	付き合いはない	-0.239		-0.349		0.658	
留学生担当職員との付き合い	上手くいってる	0.033	0.904	-0.163	2.655	-0.462	1.458
	やや上手くいってる	-0.098		0.03		-0.008	
	余り上手いかない	0.085		-0.252		-0.367	
	上手いかない	-0.696		2.403		0.638	
	付き合いはない	0.208		0.129		0.996	
大家・寮の管理人との付き合い	上手くいってる	-0.169	1.518	-0.083	0.883	0.016	1.019
	やや上手くいってる	0.127		0.019		-0.006	
	余り上手いかない	0.816		-0.324		-0.303	
	上手いかない	-0.702		-0.665		-0.895	
	付き合いはない	-0.109		0.217		0.124	
近所の人々との付き合い	上手くいっている	0.139	0.923	-0.014	0.875	0.073	0.572
	やや上手くいってる	-0.15		0.048		0.085	
	余り上手いかない	0.363		-0.131		-0.328	
	上手いかない	0.773		0.726		0.244	
	付き合いはない	-0.095		-0.149		-0.162	
親友は誰か	同国人の友人	-0.232	1.388	0.224	1.693	-0.076	3.206
	留学生の友人	0.846		-0.879		-0.293	
	日本人学生の友人	-0.189		0.252		1.334	
	ホストファミリー	-0.542		-1.329		-0.136	
	自分の家族	-0.036		0.165		0.161	
	研究室の仲間	0.659		-0.583		-1.318	
	アルバイト先友人	0.66		0.172		-1.873	
	誰もいない	-0.085		0.363		-0.316	
	その他	-0.538		-0.827		0.116	
相関係数		0.634		0.739		0.621	

各相関係数は十分な値をとっている。

勉学満足度のレンジをみると最も規定力が強いのは、教授との付き合いであり、次に大家・寮の管理人との付き合い、親友は誰かと続く。日常生活では、最も規定力が強いのは教授との付き合いで、留学生担当職員との付き合い、国籍と続く。日本留学推薦度で最も規定力が強いのは親友は誰かで、次に教授との付き合い、担当職員との付き合いと続く。

更に各要因のいかなるカテゴリーが満足度を抑制しているかを見ると勉学満足度では大家・管理人との付き合いが上手くいかない(−0.702)が最も高く、留学生担当職員との付き合いが上手くいかない(−0.696)、年齢 35 才以上(−0.600)、滞日期间が 3~4 年未満(−0.565)と続く。

一方、満足度を促進するカテゴリーは、教授と上手くいかない(4.545)、親友が留学生の友人(0.846)、大家・管理人と余り上手くいかない(0.816)、近所と上手くいかない(0.773)、親友が仕事先の友人(0.660)である。

日常生活満足度に関しては、満足度を抑制する要因では教授と上手くいかない(−2.384)が最も高く、国籍が北米その他(−1.556)、親友がホストファミリー(−1.329)、滞日期间が 6 カ月未満(−1.126)と続く。

一方、満足度を促進する要因では、留学生担当職員と上手くいかない(2.403)、近所の人々と上手くいかない(0.726)、所属課程がその他(0.415)、滞日期间が 4 年以上(0.383)と続いている。

日本留学推薦度に関しては、満足度を抑制する要因として、親友が仕事先の友人(−0.853)が最も高く、親友が研究室仲間(−1.318)、大家・管理人と上手くいかない(−0.895)、国籍が北米その他(−0.853)と続く。

一方満足度を促進する要因については、教授と上手くいかない(1.510)、親友が日本人学生(1.334)、留学生担当職員との付き合いがない(0.996)、教授との付き合いがない(0.658)となっている。

#### 《属性+生活状況+対人関係と満足度の分析結果における考察》

勉学満足度、日常生活満足度、日本留学推薦度の全てでレンジが大きく、強い規定力を持つのは親友は誰かと教授との付き合いの 2 要因であった。又

満足度 2 種類について強い規定力を持つのは国籍、滞日期間、留学生担当職員との交流、大家・管理人との交流の 4 要因であった。

カテゴリー別に見ると、満足度を促進するのも抑制するのも対人関係からより数多く選び出されており、日本に対する想いを良くするも、悪くするも対人関係が深く影響していることが明らかになった。

○対人関係の要因を加えて分析した結果、基本属性・生活状況のレンジは小さくなり各要因の規定力は弱くなっている。

○対人関係を加えた場合の相関係数は数字が大きくなっており、それだけ留学生の満足度が促進されたことが示された。

○規定力の強い要因が対人関係に著しく多く選び出されており、それだけ影響力をもっているといえる。

○滞在施設はアパートや大学寮・ホームステイ等日本人と接触する機会が多いほど満足度を促進し、ここでも対人関係の重要さが示唆された。

○友人以外の日本人との交流では、教授や近所の人々と上手くいなくても満足度は促進されたり、交流ができて満足度が抑制されたりと複雑な要因が絡み合って満足度に影響を与えていると考えられた。

以上、数量化Ⅱ類による分析結果からも対人関係の重要さが示唆された。

## おわりに

在日外国人留学生が満足度の高い留学をするには対人関係が重要であるという視点に立ち、それらを検討するために友人関係・対人関係に焦点をあてた調査・分析をしてきた。静岡県下の留学生に質問紙調査を行い、その結果をクロス集計と数量化Ⅱ類によって分析した。

クロス集計の結果から、友人関係・対人関係は満足度に大きく影響し、同国人との強いつながりや日本人との幅広い交流がみられ、信頼のおける友人との新密度が重要であること、日本人学生との関係の善し悪しが大切であることも示された。

数量化Ⅱ類による分析・考察の結果、基本属性については滞日期間と所属

課程が満足度に強い規定力を持ち、基本属性に生活状況を加えて分析すると、生活環境で好意的に思う事が多ければ属性のマイナス部分を補う結果が出ており、生活状況の要因が加わると留學生活の満足度が影響される事が示された。更に、対人関係の要因を加えると満足度に与える影響力はさらに促進され、対人関係のカテゴリーの規定力も大きくなった。満足度を促進するも抑制するも対人関係の要因が多く、日本に対する印象を良くするも悪くするも対人関係が深く影響する事が示された。

留學生の異文化適応は動的な過程なので、今後は時期的変化によって各要因の係わりがどう影響するかを測定できる縦断的調査が望ましい。

## 注

- (注 1) JAFSA 外国人留學生問題研究会 会報 No. 81, p. 10 より参照. JAFSA は国公立大学・日本語教育機関の教員や職員, 国際教育交流団体職員等が会員となり, 留學生の受け入れ/送り出しの仕事に係わる専門家集団として諸活動をしている.
- (注 2) 静岡県下にある大学・短大の内, 20 人以上の留學生が在籍している大学・短大で質問紙調査を行ったために, 配布数は 407 となった. (配布先は大学 5 校・短大 2 校である.)

## 文 献

- Brislin, R. W., Cushner, K., Cherrie, C., & Yong, M. 1986. *Intercultural interactions: A practical guide*. Beverly Hills, CA: Sage.
- 江村裕文. 1993. 留學生の異文化適応. 法政大学教養部紀要, 85 号, pp. 1-11.
- Furnham, A. and Bochner, S., 1986. *Culture Shock: Psychological Reactions to Unfamiliar Environments*. London: Methuen.
- 萩原 滋. 1991. 日本留學に対する在日および帰国留學生の評価—1975 年および 1985 年の調査結果から. 異文化間教育 5. アカデミア出版会, pp. 35-48.
- 井上孝代・伊藤武彦. 1995. 来日 1 年目の留學生の異文化適応と健康. 異文化間教育 9. アカデミア出版会, pp. 129-141.
- 岩男寿美子・萩原 滋 (共著). 1988. 日本で学ぶ留學生. 勁草書房.
- 加賀美常美代. 1994. 異文化接触における不満の決定因—中国人の就學生の場合. 異文化間教育 8. アカデミア出版会. pp. 117-126.
- 箕浦康子. 1992. 日本人學生と留學生: 予備調査—岡山大学における異文化接触の実態とその促進要因—岡山大学文学部紀要, 18 号, pp. 69-85.
- 手塚千鶴子. 1991. 留學生の異文化適応ストラテジー. 高橋順一・中山 治・御堂岡 潔・渡辺文夫編. 異文化へのストラテジー. 川島書店, pp. 62-83.
- 富岡直子. 在日外国人留學生の異文化接触に関する研究. 1996 年度. 東京女子大学現

代文化研究科修士論文（未発表）。

[東京女子大学現代文化学部大学院現代文化研究科 1997 年修了、慶応義塾  
大学大学院社会学研究科]